

軽井沢町議会議員 福本修 4年間の活動と実績



一般質問で取り上げたテーマから抜粋

土地利用に伴う修景植栽の確認
公共交通研究の今後
コンパクトシティ構想
ウィズコロナ時代の経済振興策
観光振興施策
コロナ禍における高齢者のメンタルヘルス対策

指定管理者の選定等について
6次産業化拠点としての発地市庭の整備
自治体クラウド
幼児教育の充実、支援
通学に利用するバスの利便性向上
6次産業化のさらなる推進策

福本の町内公共交通機関の抜本的見直し案

「空気を運ぶバス」。乗客が誰も乗車していない状態を見かけることも多い町内循環バスを揶揄したものです。一方で、免許の返納等により自動車免許を所持していない高齢者世帯の近くにバス停がない、子どもたちが移動するのに便利なバスルートがない、あるいは公共交通機関がない地域が存在するといった問題も存在します。このような問題を最大のコストパフォーマンスで解決するために私が提唱するのは次の施策です。

施策1：AIデマンド交通の導入

AI活用型の運行システムを使い、電話などで依頼をすれば自宅そばまで送迎してくれる乗り合い交通機関を導入する。効率的な運行のために町内の端から端を一本でつなぐといった運行はせず、西地区、中軽井沢地区、峠町・旧軽井沢・新軽井沢を含む東部、南軽井沢の4つのゾーン(分け方は実証実験を経て検討)で運行。ゾーンとゾーンの間はしなの鉄道または隣のゾーンのデマンド車両を乗り継ぐ。

施策2：町内循環バスの減便と通学主眼のバスを導入

令和5年度の町内循環バス運行委託費は8,700万円。この上でデマンド交通を運営する財政負担を考慮し、「一日の平均乗車人数の合計が4.5人に満たない」などの条件で対象を選び減便する。減便で満たせなくなった移動ニーズはデマンド交通に任せる。ただし通学用には乗車時間最大30分というルールを作り、通学主眼のバス便を設定する。

施策3：しなの鉄道軽井沢駅と信濃追分駅の往復運行

軽井沢駅と信濃追分駅間を往復運行すれば現状30-60分に一本の運行を20分に一本程度可能。各駅のハブとしての機能強化で次のような利点がある。

デマンド交通やタクシーとの乗り継ぎで効率的な移動を実現
交通渋滞の緩和 / 二酸化炭素排出抑制
交通事業者、駅周辺の飲食・小売業のビジネス拡大
町内の回遊性を高めることで軽井沢の文化体験機会増大

皆に伝わる防災情報伝達手段

デジタル化に伴い伝達範囲が狭まった町の防災行政無線。新たな伝達手段の早急な構築が必要です。私は地デジの隙間波を使った手段の優位性が最も高く、かつ大規模災害時のネット編寸断に備えた衛星利用のネット接続が必要と唱えています。総務常任委員会の一員としては「防災ラジオ等の導入に関する提言書」を町に提出しました。



わんこ好きも、そうでない人も、互いに気持ちよく暮らせる軽井沢をつくりたい。愛犬の自宅出産も経験した私は観光協会の軽井沢ドッグツーリズム推進プロジェクトのアドバイザーとして活動(写真はうちの子)。



「つがるや」利活用の道筋をつくる

追分宿に三軒現存する江戸時代の建物のひとつ、「つがるや」。追分の人々と訪問者が交流する、また子どもたちが集う場とすべく改築する道筋ができました。

以下は見込スケジュール。

令和5年度：設計 / 令和6年度：工事



修景に関わる補助事業実現の見通

追分らしい建物の新築・改築に対して町から補助金が給付されるように、福本も評議委員を務める追分地域会議で話し合いを続けています。令和6年度から補助事業の開始が見込まれます。



自然保育を応援しています。長野県自然保育推進議員連盟の一員として、国の施策対象外である野外保育施設の保育士等の処遇改善を求める要望書を県に提出しました(写真は森のようちえんぴっぴ)。

プロフィール

昭和41年11月17日生まれ。横浜市出身
当時3歳の息子を自然豊かな環境で育てたく軽井沢町追分に移住
・2001年サーバのコロケーション等を手掛けるICT会社設立
・2004年カナダ、バンクーバーに現地法人設立
・2019年 軽井沢町議会議員選挙初当選
・米国カリフォルニア州の学校(GIA)にて講師を務めるなど、海外駐在歴は約4年
・NHK BSプレミアム等に出演や著述あり。

